

みどり生活の楽しみ⑤～テーブルの上のランドスケープ～カラフルなゼリーでランドスケープ

植物は屋外で栽培されることが多いのですが、室内に取り入れて、一足先に涼しげな夏の装いを楽しんでみてはいかががでしょうか。植物を身近に感じられるように、テーブルの上で楽しむアイデアをご紹介します。いつも目にするところに植物を取り入れると、その成長や表情にきっと新しい発見があるでしょう。

◎室内へ持ち込むには・・・

食べるものの近くに置くわけですから、衛生面への配慮が必要です。屋外の土をそのまま持ち込むことはお勧めできません。小さな子たちがうっかり口にしてしまったり、虫や様々な菌類のすみかになってしまったりする可能性もあるからです。

室内で安心して楽しむためには、ハイドロカルチャー（水栽培）の用土（土とは限りません！）をつかいましょう。最近では、園芸店やインテリア雑貨のお店で植物を楽しむ色々な用土が扱われており、セラミック素材のものや炭からつくられた素材のものもあります。その中で、今回ご紹介するのは、園芸用に市販されている高分子ポリマー素材のものです。水を吸った状態で販売されている高分子ポリマーはカラフルなゼリーのようで、見ているだけで楽しくなってきます。

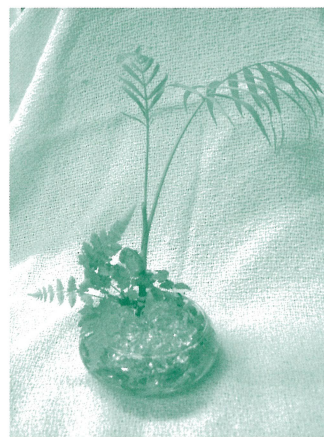
◎高分子ポリマーってどんなもの？

高分子ポリマーはオムツにも使用されているもので、本体の何倍もの水を吸収して膨らみます。そして、いったん吸収した水分は、ゆっくりゆっくり蒸発していきます。吸水性に優れるうえ、保湿性が抜群に良い素材なのです。

今回ご紹介する園芸用資材のほかにも、こういった高分子ポリマーの特性を生かして、ランドスケープの世界でも様々な利用がされています。例えば、年々増えてきている屋上などの特殊空間緑化では、通常植物が生育している地上の環境よりも風が強くて、乾燥しやすいといった問題があります。また、あまり建築物へ荷重の負担がかかるといけません。そこで、特殊空間緑化に使用される土壌にこの高分子ポリマーを混合して、軽くて保水性を高めた資材が開発されて、実際に利用されています。また、高分子ポリマーは、その保湿性を生かして、砂漠の緑化にも利用されている注目の素材なのです。

◎材料をそろえましょう

植物は、「観葉植物」が育てやすく良いでしょう。私たちが「観葉植物」と呼んでいる仲間の多くは、もともと熱帯地方で生育しています。かれらが生育している熱帯雨林では、数十メートルにもなる高木から、限りなく地面近くで生きている植物まで、それぞれが生きている空間が階層になっています。なので、下のほうで生きている植物たちは、上方で生きている植物に邪魔をされて十分な日光を浴びることができません。そのため、明るい室内でも十分に育ってくれる植物が少なくないのです。室内に植物を持ち込む場合は、このような植物を選んであげましょう。



高分子ポリマーを用いた園芸用資材には、乾燥タイプと、既に水分を含んでいるタイプがあります。乾燥タイプのもは、事前に水でふやかしてから使用するので手間が要りますが、保存するときに場所をとらないので便利です。どちらのタイプでもデザインの方や管理の方法は同じですので、使い勝手のよいほうを選ぶと良いでしょう。

◎さっそく挑戦！

まず、透明な容器を準備します。容器は、栽培用の特別なものである必要ありません。ワイングラスやガラスの小鉢のような食器を使っても、おしゃれにテーブルを演出できるでしょう。そして、準備した容器に好きな色的高分子ポリマーをいれます。1色だけでなく、いくつか色を混ぜてもとてもきれいです。様々な色を駆使して、海辺の風景や夕暮れの様子など、小さなガラスの中のランドスケープに挑戦してみてください。根がついた植物の場合は、よく水洗いしてから高分子ポリマーに挿し込みます。また、ご家庭で育てておられるグリーンを切って挿すこともできます。挿し芽などの栄養繁殖には、あたたかくて湿度のある梅雨シーズンが最も適していますので、ぜひこの機会に、南国生まれの植物たちを増やしてみしょう。

このように手軽に使える高分子ポリマーですが、全く水をやらなくても育つわけではありません。縮んできたときに、水をやるタイミングです。ただし、水が多すぎると根腐れを起こしますので、底に水が溜まらないようにしましょう。

植物の根は明るい日差しの中でなく、土壌の中へ伸びているものですので、基本的には、暗い環境を準備してあげるほうが良いのですが、高分子ポリマーを利用した場合でも、十分に生育します。透明な素材を使う利点として、日々伸びていく根の様子など普通では見られないものも観察できるということがあります。ぜひ、みなさんも毎日観察できる場所に高分子ポリマーと植物をつかってランドスケープをつくって、自然をより身近に感じてみてください。